

## 財務の概要

令和2年度は、昨年度に引き続き施設将来計画を着実に実行した。新病棟建設地として計画している旧校舎(中央校舎、北校舎、佐藤記念館)、および巴記念教育棟増築予定地である看護学部第1・3校舎の解体をすすめた。東医療センターの足立区移転に関しては、令和3年7月竣工に向け工事が進められている。

収支面では、COVID-19 関連による収支インパクトは非常に厳しいものであった。特に4月から5月間で約30億円の赤字に陥り、国の第2次補正予算による、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた医療機関に対する公的融資制度を活用し、長期の運転資金として約97億円を確保した。

収入に関しては、主な三病院では外来収入、入院収入ともに大幅な減収となった。本院では1日平均で外来559人、入院171人が減少している。東医療センターでは1日平均で外来167人、入院55人が減少。また八千代医療センターも1日平均で外来123人、入院60人が減少している。三病院すべてが大幅な患者数の減少となったことで、医療収入は昨年度比で77億7千5百万円の減収であった。

支出に関しては経営統括理事の主導の下、その直轄組織である経営統括部を通じ徹底的な経費削減を始めとして、人件費の適正化等の重要な経営課題に対しスピード感をもって確実に取り組んできた。その結果、人件費は予算を12億1百万円下回った。

なお、特例的な補助金として国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」としての財政措置により、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れている医療機関に対する補助金が交付された。本学に対してもCOVID-19 関連の補助金として約99億円の補助金が交付され、表面上の基本金組入前収支差額は予算を79億9千2百万円上回る82億3千4百万円の収入超過となった。